

# GMO INTERNET GROUP

## 2024年12月期 第1四半期決算説明会 質疑応答の要約

2024年5月10日に開催した決算説明会において、参加者の皆さまから頂いた質問をまとめたものです。GMOインターネットグループCFOの安田、グループ執行役員の稲垣、GPUクラウドサービス責任者の刀根、GMOフィナンシャルホールディングス代表執行役社長の石村より回答させていただきました。なお、一部IR部門にて回答を補足させていただきます。

### ● 連結

【Q1】 1Qの営業利益を押し上げた一過性の要因はありましたか？

【A1】 暗号資産交換事業がマーケット要因もあり好調に推移しましたが、特段一過性の要因があったとは考えていません。  
(安田)

【Q2】 売上の伸びに比して、増益幅が大きかったが、改めて要因を解説して欲しい

【A2】 大きく3つです。まず、インフラの各事業の業績拡大がありました。次に、限界利益率の高い暗号資産事業の業績拡大による、黒字転換です。そして、前年同期にタイの証券事業などで計上した一時的なコストが今期は発生しなかったことです。  
(安田)

【Q3】 1Qの利益進捗が強い数字に見えるが超過利益が出た場合、中期的な成長を見据え、成長投資を加速させたい事業領域はありますか？

【A3】 現状、具体的に予定している領域はございません。一方で、過去には上半期の利益を原資に戦略的投資を行ったこともありますので、その時々判断となるかと考えます。  
(安田)

### ● インフラ事業

【Q4】 インフラ事業の増収率が前年同期と比較して大きく低下しているが、要因は何か？

【A4】 要因は主に2つで、前年同期の数字が高水準であったことに加えて、テクニカルな要因によるものです。まず前年同期はイエラエの新規連結効果、GMOフィナンシャルゲートの大型案件の影響がありました。また、23Q4からEC支援事業において会計処理を変更し、純額処理を適用したことによる影響が約4〜5億円ありました。いずれも一過性のもので事業コンディションに変調をきたしているものではありません。  
(安田)

【Q5】 インフラ事業の営業利益の高成長要因について、上場子会社以外の要因を教えてください

【A5】 上場グループ会社以外では、GMOインターネットグループ本体の事業で3億円ほどの増益がありました。これ以外で1億円以上の増益部門はなく、各社の積み上げにより、30%増益を達成しました。  
(稲垣)

【Q6】 インフラ事業の営業利益率が20%を超えてきたが、今期末に向けて維持できますか？

【A6】 この四半期の営業利益は特殊要因があったわけではなく、基本的に維持可能と考えています。ただし、1Qは季節性もあり数字が出やすい四半期であること、また、各部門において事業進捗が好調で  
(安田)

# GMO INTERNET GROUP

あれば下期において投資を実行する可能性があることはご留意ください。

## ●金融

【Q7】 タイ証券事業にかかる引当金の見通しを教えてください

【A7】 信用取引残高の圧縮に取り組み、ここ1年ぐらいで100億円強の残高を減らしてきましたが、まだ300億円を超える水準となっています。この信用取引残高に対し、一定程度の割合で引当が追加で発生するリスクは払拭できていません。債権回収とさらなる信用取引残高圧縮に向けては、別の対応が必要であると考えています。具体的な施策については引き続き検討し善処していきます。

(石村)

## ●GPUクラウドサービス

【Q8】 GPUクラウドサービスについて、他社との違い、貴社の特徴を教えてください

【A8】 NVIDIA社の最新GPUである「H200」の最速提供とNVIDIA社が推奨・認定した複数台利用におけるGPUパフォーマンスを最大限発揮できるクラウド環境を安価に提供できる点に優位性があると考えております。

(刀根)

【Q9】 GPUクラウドサービスへの正味の投資額は、投資計画の71億円から、助成金19億を控除した、50億円ほどという理解で正しいか？

【A9】 キャッシュの動きについてはご認識のとおりです。補助金の扱い含め、PLとしてどう表現されるかは、詳細が確定し次第お伝えいたします。

(安田)

【Q10】 GPUクラウドサービスの収益性はどう見ているか？また、減価償却の期間は何年か？

【A10】 収益性については、お客さまとの調整の状況など踏まえ、適宜アップデートさせていただければと思います。また、12月の稼働開始を予定していますので、今期の業績影響は軽微です。減価償却については5年を予定しています。

(刀根)

以上